
2025年度事業報告書



公益財団法人
ボーイスカウト日本連盟
SCOUT ASSOCIATION OF JAPAN

〈目 次〉

I	最重点施策・成果目標	-----	
II	重点施策	-----	
III	日本連盟が展開する施策、実施する事業	-----	3
IV	各種会議の開催	-----	24
V	参考（規程等改正一覧）	-----	32

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

2025（令和7）年度 事業報告

I 最重点施策・成果目標

最重点施策	加盟員の減少を止める
成果目標	72,000人以上（2025年度末加盟登録人数）

各担当委員会、コミッショナーグループ、各県連盟、各団にご努力頂きましたが、残念ながら結果として、2026年3月末登録人数は、71,394人と、日本連盟全体として成果目標は達成できませんでした。

しかし、別資料【組織拡充資料】にありますように、山形県連盟、栃木県連盟、山梨連盟、新潟県連盟、鹿児島県連盟の5つの県連盟では、スカウト数の増加を伴う前年同期比100%以上を達成されており、県連盟単位としては、本年度の最重点施策である、「加盟員の減少を止める」施策展開により結果は出ています。各県連盟のご努力に感謝いたします。

日本連盟全体の結果は、前年同期比95.91%、3,043人の減少でしたが、今までの、日本連盟施策の効果が十分に効いていないと言わざるを得ない実績と反省して、次年度の事業に反映していく所存です。

一例として、今まで各団、地区で開催ご協力いただいて全国展開している「ワクワク自然体験あそび」の当初の頃の全体の登録人数減少率が、96～97%であったのが、本年度は低下しています。ビーバースカウトの登録人数が、本年度は、対前年同期比92.72%となっていることが大きな要因と考えます。日本連盟の施策を前年踏襲だけでなく、現状の見直しをかけながら変化するスカウト、保護者各位、社会要求に応じていく必要があることを再確認していきます。

II 重点施策

1. 入隊促進

計画時のポイント：全年代のスカウト入隊、指導者確保を推進します。

結果：新規加盟員数はカブ、ボーイスカウト部門では前年新規入隊者数は増加しましたが、他の部門での減少により増えていません。また指導者数は大きく減少しています。

前年比較：スカウト -42人、隊指導者 -165人

スカウト入隊：カブ、ボーイスカウト部門は、前年比較でプラス、他の部門はマイナス

		人数	前期比較	年度末総数
ビーバースカウト		3,583人	-70人	6,128人
カブスカウト		1,772人	36人	12,910人
ボーイスカウト		279人	11人	11,364人
ベンチャースカウト		28人	-7人	4,827人
ローバースカウト		238人	-12人	5,730人
指導者	隊指導者	1,530人	-165人	17,624人
	団委員等	574人	-86人	12,811人

2. 中途退団防止

計画時のポイント：スカウト達の参加モチベーションを高め中途退団を防止します。

結果：スカウト達の参加モチベーションを高めるために、プログラムの質を高めるためプログラムヒント集の発表などに取り組んできましたが、未継続者数で単純に表せませんが、中途退団が加盟員減少の最大要因であることは間違いないと考えます。

この要因に対し、社会環境の変化のせいだけにするのではなく、私たちが推進しているボーイスカウト運動の運用面が、現在のスカウト、保護者、社会ニーズと微妙に違ってないかについて、検証していく必要があります。

		未登録人数
ビーバースカウト		891人
カブスカウト		2,374人
ボーイスカウト		2,074人
ベンチャースカウト		1,008人
ローバースカウト		1,048人
指導者	隊指導者	2,259人
	団委員等	1,607人

3. 上進推進

計画時のポイント：社会から求められる成人としてのスカウトの未来が見えるようなスカウトを育てます。

結果：ローバースカウトの災害派遣奉仕、ワークショップの開催など、実施して、社会ニーズに応えられるローバースカウトの育成、スカウトフォーラム及びアフターフォーラムの開催など問題意識をもって自分には何ができるか考え、行動できるベンチャースカウトの育成を実施してきましたが、まだまだ一部のスカウトだけで、全国での水平展開が最大の課題となっています。

また、進歩に対する考え方について、総コミッショナーを中心に、県コミッショナーともようやく共通認識がもたれ始めている状況で、スピードを持った展開も同じく重要な課題となっています。

4. 人財育成

計画時のポイント：それぞれの立場でのボーイスカウト運動に貢献できるように、成人教育、訓練を開催し、運動を支えてくれる人財の育成を推進していきます。

結果：AIS 委員会を中心に、指導者訓練の実施や、県連盟での AIS セミナー実施などで、説明をしてきたが、かなり AIS ポリシーについての理解者は増えてきていますが、実際の行動までは、一部でしか始まっていないと考えます。

やはり、理解して行動していただくためには、今後の方法を工夫していく必要があります。

5. 情報発信、共有

計画時のポイント：ボーイスカウト運動をしていることに誇りを持てるように、社会や、加盟員に情報発信・共有を進めていきます。

結果：社会および加盟員に対してのボースカウト活動をご理解いただくため、「Compass of

Scouts」の紙ベース発行と、加盟員に対する必要情報の発信ツール「Scout UP!」の公開、そのアプリを利用した、スカウト活動の今とこれからをご理解いただくための「ミライ冒険通信」の毎月発行などを実施してきていますが、そのアプリの登録数が増えず苦戦しています。どんな情報を発信しても受け取られないのでは意味がありません。観ていただければ、かならず役に立ち、スカウト運土に対する誇りも持てるようになると考えますので、コンテンツの向上と共に、周知、利用の拡大が最大の課題であります。

6. 信頼される組織の維持、向上

計画時のポイント：社会及び加盟員、保護者から信頼される組織としての価値を高めます。

結果：日本連盟内のガバナンスについて、過去の習慣が優先する対応も多く、まだまだ十分とは言えないので、改善していくことが最大の課題となっています。特に、定款や、規程に表されている基本的な事項の決定手順以外の、決定手順や権限者について、曖昧な部分が一部では存在します。特に、法令や、社会常識の変化への対応が問題となっています。これらが原因の一部として、セーフ・フロム・ハームから発生した問題などがあり、これらに対し、早急に対応していく必要があります。

Ⅲ 日本連盟が展開する施策、実施する事業

I 公益事業

1. 公1事業「教育計画の策定及び運営」

(1) 教育施策を推進する教育推進本部会議開催

第1回	4月5日(土)～6日(日)	東京・国立オリンピック記念青少年総合センター
第2回	9月6日(土)～7日(日)	東京・国立オリンピック記念青少年総合センター
第3回	11月8日(土)～9日(日)	東京・スカウト会館
第4回	2月7日(土)～8日(日)	東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

(2) 施策推進の為の各種委員会開催

① 全国事務局長会議開催

日時：11月15日(土)13:00～16日(日)11:00

場所：広島・神石高原ティアガルテン 他

出席：44県連盟より事務局長(代理含む)44人、日本連盟役員2人

② 全国県コミッショナー会議開催

各回において、教育規程改定に関する協議、各常設委員会報告ならびに必要なテーマについて協議を行いました。

第1回 5月24日(土) 福岡・アクロス福岡

第2回 10月11日(土)～12日(日)

第3回 1月17日(土)～18日(日)

第2回及び第3回の会場はともに、東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

③ 県連盟代表者会議開催

日本連盟の施策を日本全国で展開していただいている各県連盟の代表者に、日本連盟の施策、現状を説明すると共に、各地域からの要望を聞いて、更なる日本のボーイスカウト

運動を推進するために開催しました。

第1回 5月24日(土) 福岡・アクロス福岡

第2回 1月24日(土) 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

(3) 関係者との連携強化の為の新年賀詞交歓会開催

2026年新年賀詞交歓会を1月24日(土)、東京・国立オリンピック記念青少年総合センターで開催し、ボーイスカウト関係者、ご支援を賜っている皆様81人のご参加いただき賀詞交歓をしました。

(4) 組織拡充県連盟支援事業

【支援事業の状況】

- ① 青森県連盟 加盟員123人→118人、スカウト44人→44人
北海道・東北キャンポリーに訪問し面談、継続した支援が必要です。
- ② 山形県連盟 加盟員173人→179人、スカウト94人→103人
北海道・東北キャンポリー時と2月県連盟理事会に訪問し面談、ビーバー隊を新たに発足させたこともあり、更なる勢いをつけるため、支援維持に積極的です。
- ③ 高知県連盟 加盟員103人→97人、スカウト59人→52人
昨年度にBS講習会を開設、今年度はBVS・CS隊指導者研修会を開催した。四国全体での支援の継続が必要だと考えます。
- ④ 熊本県連盟 加盟員524人→495人、スカウト314人→289人
理事長及び担当者の交代もあり、自県連盟で施策が打てるようになり、来年度の支援継続は不要と考えます。
- ⑤ 沖縄県連盟 加盟員331人→300人、スカウト204人→184人
昨年度は県連盟と連絡が密にできず、支援が足踏みしたが、昨年末、多人数での支援、団の聞き取りを実施した。都市部（那覇市）の衰退が顕著で、当地へのテコ入れ、大きな団が周辺地域を飲み込みつつあり一定の歯止めが必要であり、地域的に九州とは別で切り離れた支援が必要です。
 - ・ 支援を打ち切ると存続の難しい県連盟がこれからも増えていくと考えられます
 - ・ 日本連盟から直接の支援だけに依らず、地域で支える仕組み（予算配分とも）の構築が必要です
 - ・ 地域ごとのタスクチームを設置するなど、費用を抑えて効果が上げられる方法の検討が必要です

【組織活性化戦略セミナー】

岩手、宮崎、長崎県、滋賀、埼玉県、千葉県、沖縄県、東京、長野県、兵庫、福岡県、静岡県連盟にて、県連盟の要望に合わせて開催（開催日順）しました。

今後の対応については、会場の環境を整えば、一部をWEBでの開催にするなど、効率化を図ります。

(5) 全国組織拡充担当委員長会同

- ・ 7月5日 第1回全体会（オンライン） 45県連盟45人参加
グループ別キックオフミーティング
- ・ 9月 グループ別会議（オンライン）
- ・ 10月26日～27日 第2回全体会（NYC）41県連盟41人参加

加盟員減少ストップフォーラム（講話、クロストーク、グループワーク）、ワークショップ

- ・ 2月 グループ別会議（オンライン）
- ・ 特に対面での開催は有意義で、直接意見を聞くことができました
- ・ 聞き取った直接意見と県コミッショナーとの意見の差異が大きい県連盟もあり摺り合わせと実現への道筋作りが必要だと感じました。

(6) 募金事業

【感謝状・年功章(年功メダル)・カレンダーの発送】

維持会員への感謝を印すため、維持会費の累積額に応じた「感謝状」、継続年数に応じた「年功章」（加盟員）、年功メダル(非加盟員)の発送を行いました。また支援企業などをふくめて「ボーイスカウトカレンダー」をお届けして、日々の活動が目につくようにしています。

【ボーイスカウト NEWS・リーフレット】

<https://www.scout.or.jp/support/supporting-member>

日本のボーイスカウト運動を支えていただく維持会員に対して、活動のトピックスを伝えていくため「ボーイスカウト News」を6月と12月の年2回発行しました。維持会員を幅広く募集するにあたっては、前年度に新しく広報委員会協力のもとで作成したスカウト活動を紹介するリーフレットを活用しました。前年度に引き続いて取組みの参考にするため、県連盟での維持会員への働きかけ状況について、いくつかの県連盟から状況をヒアリングしました。

【決済方法の提供】

維持会費の納入方法には、日本連盟サイトからの「コングラント」によるクレジットカードによる納付(マンスリー維持会員・年間会員)、「1回きりの寄付」「金融機関からの振込」を用意しています。

皆様からのご厚志は、

- ・ ジャンボリー、アグーナリー（障がいのあるスカウト等の大会）等各種大会の開催
- ・ 国際社会で活躍・貢献できる人材育成のためのプログラム開発
- ・ 国際交流事業の積極的展開、野外教育活動の幅広い展開のための野営場・研修宿泊施設の整備、ボランティア指導者の育成強化、ボーイスカウト運動に参加いただくための普及事業等に活用し、ボーイスカウト運動の一層の発展のために役立てています。

またご希望に応じて、例えば日本スカウトジャンボリーへの指定寄付。ともに進もう助成への寄付等の「目的指定寄付」についても承っています。

【遺贈寄付】

<https://www.scout.or.jp/support/legacy>

また急速に日本社会で進む「遺贈寄付」についても、受け入れを整備して、対応をしています。「遺贈」とは、遺言を残しご自分の財産を特定の人や団体に分け与えることをいい、受取人として法定相続ではなく、遺言書により一部または全ての財産の受取人として、公益財団法人ボーイスカウト日本連盟をご指定いただくことができます。

【JAMMIN チャリティグッズ】

チャリティグッズメーカーJAMMIN とコラボ企画として 25.9.22-28 に実施。商品グッズ販売といいね!シェア宣伝広告が日本連盟への寄付となります。寄付金額 367,325 円

<https://www.scout.or.jp/member/jammin-charity-2025-report>

【ロイヤルホテル様チャリティ企画】

コングラントのしくみを活用して、社内公募チャリティ企画として、社員のウォークチャレンジ「90日チャレンジ!リーガチャリティウォーク」の達成状況での寄付先のひとつとして日本連盟を選択いただきました。寄付金額 200,000 円

https://corp-rihga.g.kuroco-img.app/v=1768971921/files/topics/1641_ext_1_0.pdf

【I9NSJ 関連の寄付働きかけ】

- ・「I9NSJ への協賛依頼」として、スポンサー向け資料を作成して、これまでの協賛企業、日本連盟の応援企業、地域の関係先などへ働きかけのアプローチを行った。協賛を進めるためのグッズとしてネックストラップレス、ピンバッジ、シンボルマークシールなどを作成して活用しました。

<https://19nsj.scout.or.jp/public-relations/sponsor>

- ・開催地である神石高原町のふるさと納税でジャンボリーを応援して機運を盛り上げようとしていただいております。個人版のふるさと納税では、第一弾寄付額 400,000 円、第二弾寄付額 1,562,000 円、に続いて今後も予定されています。

第一弾 <https://www.furusato-tax.jp/gcf/3982>

第二弾 <https://www.furusato-tax.jp/gcf/4696>

また企業版ふるさと納税でも、開催応援を後押ししていただいております。

<https://www.jinsekigun.jp/town/formation/seisaku/oshirase/e165/>

- ・三者連携協定に基づいて開催場所の神石高原ティアガルテン(カントリーパーク仙養)がジャンボリーチャリティゴルフコンペ企画いただきました。コンペ期間の終了後に、寄付金額が確定次第、日本連盟へご寄付いただけます。

<https://19nsj.scout.or.jp/outline/regional-partnership>

【寄付額の実績】

維持会員からの寄付 9,593,000 円(目標額 2,050 万円)

※日本連盟全体では 61,101,000 円(目標額 57,500,000 円)

一般寄付 13,801,504 円

クラウドファンディング 3,512,000 円

指定寄付 3,754,017 円

もったいない寄付 113,549 円(換金分)

※日本連盟で集めている寄付額は約 2,118 万円(遺贈寄付、災害募金をのぞく)

(7) ともに進もう助成事業

【クラウドファンディングの実施】

「ひとり親家庭を応援!ボーイスカウトで"未来に生きる体験"を届けたい」

https://readyfor.jp/projects/scout_tomosusu03

実施期間：2025年12月10日～2026年2月10日

4年目の挑戦となった今回は、目標額の330万円を上回る351万2千円(154人からご支援)をいただきました。日本連盟創立100周年の機会に初めて実施して以来、累計でのべ1,005人のべ15,863,000円のご支援をいただいております。皆様からの温かいご支援に深く感謝申し上げます。オンラインミーティングでは、社会課題の第一線の現場で活躍する多様なゲストをお迎えして、地域の課題解決に理解が深まるように取り組みました。アーカイブは社会課題の解決についての生きた教科書として、指針を与えてくれます。

【オンラインイベント】

- ・12/5 事前配信オンラインイベント (松岡・和田委員)
- ・12/11 ゲスト：江田初穂さん(認定 NPO 法人ほうぼく「希望のまちプロジェクト」)
- ・12/19 ゲスト：山路健造さん(多文化人材活躍支援センター)
- ・1/14 ゲスト：山田 心さん(東京おもちゃ美術館 館長)
- ・1/22 ゲスト：松村 渉さん(ひろしま NPO センター)
- ・1/26 ゲスト：三浦美樹さん(日本承継寄付協会/公益財団法人 Will for JAPAN 代表理事)
- ・2/5 ゲスト：清輔夏輝さん(認定 NPO 法人チャリティサンタ代表理事)
- ・2/10 最終日イベント

https://www.scout.or.jp/member/cf_tomosusu2025_live

【トモス指定寄付/もったいない寄付】

<https://www.scout.or.jp/support/donation>

ひとり親家庭などへの支援を行う助成金原資として、指定寄付およびご家庭に眠っている不用品を回収して役立てる「もったいない寄付」を実施しました。

指定寄付 1,254,017 円

もったいない寄付 113,549 円

上記以外にも「つながる募金」による納付、「Yahoo! ネット募金」による納付「PayPay」からの決済にも対応するようになりました。Yahoo! ネット募金は、V ポイントでも納付できるので、他の決済手段も含めて一般の方からも利用しやすいように案内に務めてまいります。

【対象者向けアンケートによる「体験格差白書 2025」を公開】

<https://www.scout.or.jp/member/tomosusu-report2025>

ひとり親家庭の保護者に向けたアンケートを実施して、その結果をまとめました。ボーイスカウト活動をできる限り長く続けさせたい 71%、スカウト活動を友人知人に勧めたい 73%、ボーイスカウトが子どもにとって大切な居場所になっていることに加えて、相談相手の一つとしてスカウト関係者を挙げるのが約 2 割(学校の先生の 2 倍)と保護者にとっても繋がりを感じる地域のコミュニティになっていることがわかるなど、日本の社会課題のひとつである「孤立・孤独・孤育て」についてスカウト活動が取り組んでいる価値について可視化しました。ひとり親家庭等応援・ともに進もう助成プログラム(通称「トモス助成」)の一環として、ボーイスカウトに参加するひとり親家庭を対象とした調査報告書『ボーイスカウト・ひとり親家庭における体験格差白書 2025』を 2026 年 1 月 28 日(水)に厚生労働省にて記者会見を実施し、調査結果と今後の取り組みについて発表しました。

調査の結果、

- ・9 割近い家庭が、子どもの「やってみたい」体験を諦めた経験を持つこと
- ・そのような家庭にとって、ボーイスカウト活動が「身近で」「継続的な」体験活動の場として選択されていること
- ・全国約 1,600 か所の活動拠点と、年間のべ 12 万回の活動という基盤が、体験活動を必要とする子どもたちに届いていることなどが明らかになりました。

【トモス助成の現状】

<https://www.scout.or.jp/member/group-operation/subsidy-program>

ともに進もう(ひとり親家庭等応援)助成プログラム(略称:トモス助成)は、経済的な理由で活動に参加できない子どもたちに機会を提供できるよう、主にひとり親家庭を対象に、活動への参加にかかる費用の一部を助成している取り組みです。2025 年度は過去最大

の 328 人に助成を行いました。これまでの 10 年間でのべ 1600 人以上に活動支援金を助成しました。

(8) 社会連携

① コラボレーションバッジ作成、展開

【新チャレンジ章】

<https://www.scout.or.jp/member/new-challenge-badge>

2025 年度実施状況：

第 1 期（～4/14） 25 県連盟のべ 144 隊（実質 74 隊）から 1,626 人

第 2 期（～6/2） 19 県連盟のべ 89 隊（実質 48 隊）から 1,169 人

第 3 期（～9/1） 16 県連盟のべ 47 隊（実質 38 隊）から 436 人

第 4 期（～11/10） 14 県連盟のべ 34 隊（実質 28 隊）から 312 人

継続と終了：

01 フィールドマスター

02 セーフティーエキスパート（第 3 期で終了）

03 フォレストガーディアン（在庫対応のみ）

04 ピカッと探検隊（在庫対応のみ）

05 おなかエキスパート

06 STEM博士

07 サイバーセキュリティーヒーロー

08 ハイウェイナビゲーター

09 LPガスの達人（第 1 期で終了）

10 名勝博士

② 全国防災キャラバン

参加者は約 9,000 人にも及んでいます。日本各地で災害が頻発している中で、改めて「災害対応」「防災」に対する関心が高く「思いやり防災」をテーマに共通プログラムとして災害時の多様性への配慮などを体験できるワークショップを展開しました。

また、会場によっては地域の他団体と連携して、オリジナルプログラムを各地で展開したことを報告いただいております。地域との連携が今後は「顔と顔の見える関係」となって、防災力の向上に寄与することができると感じています。「スカウト=そなえよつねに=防災力=生き抜く力」というイメージへも貢献を果たしているプログラムとなってきています。

【実施概要】

<https://www.scout.or.jp/member/regular-event/disaster-prevention-caravan>

実施期間：会場ごとに通年で実施(約 8 割が 9-11 月の秋口の開催)

実施会場：全国のイオンモール等

全国での開催 52 会場（32 県連盟）

共 催：イオン株式会社、イオンモール株式会社

【キックオフイベント】

日 時:2025 年 8 月 30 日(土)

開催場所:イオンモール福原

内 容：奈良県連盟まほろば地区の皆さんのご協力で開催、橿原市亀田市長、イオンモール橿原の奥野ゼネラルマネージャー、日本連盟村田総コミッショナーの開催セ

レモニー、防災キャラバンプログラムに加えて、特殊車両（パトカー・白バイ・装甲車・消防車等）の展示、奈良県連盟の大雨あぶない体験、消防署の AED 体験、日本公衆電話会の災害伝言ダイヤル体験、イオンモール橿原によるカマドベンチ・マンホールトイレ等、他県連盟では少なかった地域連携が充実した展示内容は素晴らしかった。

<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000072.000059766.html>

③ めざせ！ボーイスカウト ポケモントレーナー！」

- ・ ポケモン社とのコラボプログラム
- ・ 実施状況：39 県連盟約 200 会場
参加者約 13,000 人（スカウト約 8,000 人、一般児童約 5,000 人）
- ・ 今年度に引き続き、2026 年度も県連盟、地区、団等で実施します

④ 企業研修

企業向けリーダー育成プログラムとして大学生向けの事業（文部科学省案件）を実施しました。

日 時：9 月 14 日（日）～15 日（月）

場 所：日本連盟・高萩スカウトフィールド

参加者：8 人、スタッフ 8 人

内 容：宇宙飛行士訓練で用いられる自己成長項目を取り入れた社会人向けの企業研修を実施

(9) 「人生の岐路に立つ君に」 事業

昨年度よりエントリー方式に変更し、今年度の対象人数 1,460 件に発送しました
スカウト、受け入れ団体ともに意思があればエントリーする形で、対象をローバーにも拡大することができます。

(10) 高萩スカウトフィールド活用事業

仲良くなる活動、野外炊事、自然に親しむ・感じる活動を行いました。

【茨城県立高萩高等学校】

日 時：10 月 17 日（金）9：30～14：30

参加者：高校 1 年生 53 人、教員 9 人、スタッフ 6 人

【リリー子ども&スポーツ専門学校】

日 時：10 月 30 日（木）13：00～31 日（金）13：30

参加者：専門学校 2 年生 23 人、教員 3 人、スタッフ 3 人

【高萩スカウトフィールド活用実行委員会（高萩市の委員会）「親子デイキャンプ」】

日 時：11 月 22 日（土）9：00～15：00

場 所：茨城・高萩スカウトフィールド

参加者：9 家族 26 人、スタッフ 22 人

(11) BS、VS 部門プログラム検討事業

【BS/VS プログラム検討タスクチーム】

- ・ 3 月まで 21 回開催（2 年間 web 会議 21 回）

- ・ タスクチーム員7人（タスク長、各ブロックから選任された県コミッショナー6人）
- 2025年度末までの任期中に行っている主な検討テーマ：
- ① プログラムの検証と基本方針の策定
 - ・ 日本青少年プログラム方針に基づく検証：「日本青少年プログラム方針」に基づき、各部門の教育内容やプログラムの検証
 - ・ スカウトプログラム開発指針の策定：プログラム方針を具体化するための「開発指針」を定め、調査・研究、見直し、基準・支援ツールの作成などの根拠を整理
 - ② 到達目標と活動目標の見直し
 - ・ コンピテンシーモデルの策定：ローバースカウト終了時までどのような能力（人格、健康、技能、奉仕）を身につけるべきかを示す「コンピテンシーモデル」を作成しました
 - ・ 各部門の活動目標の刷新：ビーバースカウトからローバースカウトまで、各年代に応じた活動目標の案を検討し、上進時に目標が達成されるような構成を目指します
 - ③ 進歩・進級制度の抜本的な見直し（次年度以降も検討継続）

BS 部門および VS 部門の進級状況が芳しくない現状や、多様なスカウトへの配慮を踏まえ、以下の検討を実施

 - ・ 進歩プログラムの体系化：成長を促すための枠組みを「教育目標の達成」「体験活動の実施」「興味関心への挑戦」の3本柱で体系化する案が進められています
 - ・ 必修要素の見直し：BS 部門以上において、活動の目標達成のために最低限身につけるべき「基本的な必須活動（必修課目）」の設定が検討されています
 - ・ 多様なニーズへの対応：地域特性を活かした進歩制度や、中途入隊者を考慮した活動プログラム、人権に配慮したプログラムの開発などが次年度以降のテーマとしています
 - ④ 重点的な教育テーマの開発

社会環境の変化に対応するため、以下の4つのテーマを重点的な体験活動として位置づけ検討

 - ・ 防災教育：災害時に有用なスキルを習得するプログラムの開発
 - ・ 環境教育：持続可能な開発のための教育（ESD）の視点を取り入れたプログラム
 - ・ 平和・人権教育：全てのスカウトへ配慮されたインクルーシブな経験の提供
 - ・ スカウトキャンプ：野外での活動を基本的な手法としたプログラム構成

これらの検討を通じて、スカウト教育法の要素を踏まえつつ、現代の社会環境に適応した魅力あるプログラムへのアップデートを図っています。

(12)RS 研修開催事業

【Rover Scout Workshop 2025 の実施】

スカウトスキルが地域社会で役立つことを再認識し、今後のローバーリング（ローバースカウト活動）の指針とすることを期待して実施された

- ・ 開催日：2025年9月20日（土）～22日（月）2泊3日
- ・ 場所：MOA大仁研修センター（静岡県伊豆の国市）
- ・ 参加者：11県連盟から19人が参加（男10人、女9人）
- ・ 運営：公募によるローバースカウトと成人指導者による運営委員と協力者により運営したローバースカウト3人、指導者7人、プログラム委員5人、協力者1人
- ・ 協力：静岡県連盟伊豆地区の皆様（避難所運営シミュレーション時に避難者として協

力参加いただいた)

- ・ プログラム内容
野営生活と炊き出し訓練／HUG（避難所運営訓練ゲーム）／避難所運営体験 他

(13)DEI 推進セミナー

指導者対象に DEI 宣言を周知し、考え方や取り組みを理解し、他者との「違い」を受け入れ、認め合い、活躍できる社会の実現を目指し、青少年も成人も誰もが当たり前で DEI の感覚を持てるようにするため。応募のあった5つのブロックにおいて、中長期計画基本施策Ⅱ-1-⑧およびⅢ-2-③の達成の一環として以下のとおり開催した（開催日順）。

① 中国・四国ブロック

開催日：令和7年11月15日（土）

場 所：岡山・サンピーチおかやま

参加人数：27人

スタッフ：4人

② 北海道・東北ブロック

開催日：令和7年11月23日（日）

場 所：岩手・いわて県民情報交流センターアイーナ

参加人数：44人

スタッフ：4人

③ 中部ブロック

開催日：令和8年1月24日（土）

場 所：愛知・あいち健康プラザ

参加人数：103人

スタッフ：3人

④ 関東ブロック

開催日：令和8年1月25日（日）

場 所：東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

参加人数：34人

スタッフ：4人

⑤ 九州・沖縄ブロック

開催日：令和8年2月22日（日）

場 所：佐賀・鳥栖市サンメッセ

参加人数：21人

スタッフ：3人

内 容：§1 DEIとは(40分)

§2 ボーイスカウト日本連盟 DEI 宣言策定の経緯(30分)

§3 ボーイスカウト運動と DEI(30分)

§4 プログラムと DEI(75分)

質疑応答・講評・事後アンケート

評 価：主に DEI 特別委員会の委員がセッションを担当して進めた。AIS 委員会の委員は、全体的見守りや、場面に応じて AIS と結び付けて解説を行った。

参加者の皆さんを、コミッショナーあるいは県連盟理事の方々、隊指導者など役職ごとでグループを構成した。

一般的な DEI に関する講演の後、話し合いを進め、それぞれの役務や立場にそった困りごと、課題を挙げていただき、それに対する解説策を考えていただいた。どの会場も、熱心に聴いていただき、前向きな話し合いが展開されたと思う。また、全国で多少の差はあれ、同じようなことに困っておられることが良く分かった。今後は、県連盟単位で開催できるようなセミナーのパッケージを作成する、あるいは WEB でのセミナーを開催するなど、委員会としての課題も浮き彫りとなった。

(14)DE&I 推進フォーラム

実施日：令和 8 年 1 月 31 日（土）13 時～2 月 1 日（日）14 時

開催場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

参加人数：ファシリテーター 5 人、ユース年代スカウト 28 人（30 県連盟）

スタッフ 5 人、参席 2 人長

内 容：§ 1 多様性を感じよう（45 分）

§ 2 DEI の今！～動画視聴を含む～（75 分）

§ 3 あなたの身近な気づき（90 分）

交流会（90 分）

朝礼、スカウトズタウン、ゲーム

§ 4 課題解決（90 分）

§ 5 提言（180 分）

質疑応答・講評・事後アンケート

提 言：各グループから採択された提言は次のとおりです

【A】 DEI に関する世代間の意識差について課題を見つけ、相互理解をする

【B】 私達ユース年代は、スカウトと指導者のかけ橋として継続的に DEI を理解し伝える機会をつくる。ユース年代以上が日常の気付き受容できる運動を目指す

【C】 個人を尊重する環境づくり（DEI）の実現のため、信頼できる相互間の対話の場の創出

【D】 助け合い、助けられ合いの関係から、相互理解を深めよう～DEI の意識を浸透させるため～

【E】 DEI について、知って考えて教えられる人を増やす

評 価：ユース年代に焦点を当ててセミナーを開催したことには大変意義がありました。彼らの持つ感性や、視点や、常識の中で感じている課題や問題点を抽出して、それに対する解決策、アクションプラン、提言を策定することができました。また、同年代のファシリテーターに関しては、事前に 2 回の WEB 研修を実施して臨んでもらったことで、それぞれが自覚と自信をもって任務を遂行することができたと感じました。アンケートの結果から、「参加して勉強になった。」「DEI について深く考えることができた。」など概ね良い評価の感想が寄せられました。来年も開催されるなら他のユーススカウトに勧めたいとの回答は 100% を得ました（有効回答より）。

2. 公 | 事業「地球環境保全・保護及び教育」スカウトの日

【事業概要】

実施日：2025 年 9 月 15 日（月・祝日）

協 賛：一般財団法人セブン-イレブン記念財団

テーマ：出動！キラまち隊～人と地球によりよい未来を～

【参加申し込み状況】

47 都道府県連盟の 739 団（全 1,629 団に対して 45.36%）から
参加予定人数スカウト 19,813 人、指導者 10,618 人、合計 30,431 人

【活動報告】

47 都道府県連盟の 695 団（申込の 94.05%）
参加人数スカウト 11,311 人、指導者 6,355 人、合計 17,666 人

【活動資材】

- ①参加記念バッジ 3 万 5 千個製作（スカウト・指導者人数に応じて）
- ②「雷対策-紙うちわ」3 万 5 千枚製作（スカウト・指導者人数に応じて）

【こども新聞への広告掲載（資料動画への誘導）

掲載日：2026 年 1 月 19 日

掲載新聞社：毎日小学生新聞

普及規模：発行部数 9,900 部 47 都道府県の図書館・塾・小学校・家庭の購読者

広告構成：1 面 3 段カラー、広告サイズ天地 100 mm×左右 240 mm

3. 公 I 事業「BS を活かした自然体験活動」ワクワク自然体験あそび全国展開

6 年目を迎えた「ボーイスカウトとあそぼうワクワク自然体験あそび」は、文部科学省の後援を得て、38 都道府県で開催することができました。936 会場、12,957 人の一般児童を含むの 24,977 人の参加を得ることができました。

また、県連盟向け説明会の開催（計 2 回）、ホームページに申込ページ及び運営情報ページを掲載・更新、組織拡充委員他による会場視察、実施主体に開催補助金の交付を行いました。

なお、次年度も文部科学省の後援を得て開催できることが決定し、2026 年 3 月に県連盟向け説明会を開催（計 2 回）しました。

エントリーシステムの改善、簡素化などより実施しやすい環境を整えていきます。

4. 公 I 事業「教育に必要な施設の提供」

前年度から那須野営場検討特別委員会より評議員会、理事会に向けて提言のあった、老朽化の激しい「那須野営場」は、スカウト教育のメッカとしての役割を担うために、本館建て替え工事や場内整備に着手します。「高萩スカウトフィールド」は今後の在り方について再検討します。また萩窪「スカウト会館」についても利用の現状をみつめて検討を進めていきます。

5. 公 I 事業「集会及び講演会の開催」

(1) 第 19 回日本スカウトジャンボリー（19NSJ）開催準備

〈運営委員会と専門部会〉

運営委員会のもとに専門部会を編成して、各部の編成を進めながら業務内容を計画しました。これらの計画に基づく準備状況を、現地説明会を含む県連盟（派遣団）担当者会議にて説明し、県連盟による準備や参加申込を進めました。

基本実施要領に基づく、参加予定申込を行い（11 月末締め切り）大会人員規模を確認し、参加確定申込を 1 月より実施しました。

また、各部の計画に基づく見積りや積算等から第 2 次予算案を策定し、理事会へ提案し

ました。

〈参加予定申込状況〉12月18日時点

	ボーイスカウト		ベンチャースカウト		指導者		人数計	内交替	内兼務
	男子	女子	男子	女子	男性	女性			
派遣隊	2,830人	1,177人	809人	296人	533人	252人	5,901人	125人	
音楽隊							40人		
大会運営スタッフ					914人	322人	1,306人	50人	
派遣団本部スタッフ					191人	35人	232人	2人	16人
海外派遣隊	339人				50人		389人	7か国・地域	
海外大会運営スタッフ						46人	46人		
海外派遣団本部スタッフ						14人	14人		
計							7,819人	兼務を除く実数	

以下、運営委員会等の開催状況

【正副運営委員長会議】

第4回4月3日、第5回5月1日、第6回6月16日、第7回7月18日、第8回8月4日、第9回8月19日、第10回9月29日、第11回10月10日、第12回11月10日、第13回12月9日、第14回1月9日、第15回2月17日、第16回3月6日

【各部連携会議】

第1回9月12日、第2回10月24日、第3回12月4日、各部連携会議+サブキャンプチーフ会議（現地）12月20日～21日、第4回1月23日、第5回2月25日、第6回3月13日

【県連盟（派遣団）担当者説明会】

第1回4月15日、第2回8月9日現地視察を含む、第3回3月16日
参加確定申込説明会第1回2月12日、第2回2月5日

【参加者分野打ち合わせ】

第2回6月18日、第3回8月22日、合同会議・現地視察9月28日～27日

【ロジスティックス分野打ち合わせ】

第3回7月10日

【総務専門部会】

第1回1月17日（対面）

【サブキャンプ専門部会】

第1回10月1日

【スタッフサービス専門部会】

第1回11月20日、現地視察11月30日～12月1日、第2回12月9日、第3回1月14日、第4回2月4日、第5回3月4日、第6回3月14日～15日（現地）

【プログラム専門部会】

第1回6月9日、正副部長会議第1回7月14日、地域プログラム担当会議7月16日、プログラム担当会議7月24日、プログラム担当会議8月4日、全体行事担当会議8月22日、プログラム担当・庶務担当現地視察8月23日～24日、地域プログラム担当会議8月24日、庶務担当会議8月26日、正副部長会議9月15日、正副部長会議10月15日

日、正副部長会議 11 月 14 日、正副部長会議 12 月 10 日、地域プログラム班長会議（対面）12 月 27 日～28 日、正副部長会議 1 月 8 日、正副部長会議 2 月 9 日、場内プログラム班長会議（対面）2 月 21 日～22 日

【安全・警備専門部会】

第 1 回 11 月 5 日、現地視察 11 月 13 日、第 2 回 11 月 27 日、第 3 回 12 月 22 日、第 4 回 1 月 7 日、第 5 回 2 月 4 日

【輸送専門部会】

第 1 回 7 月 26 日～27 日（現地）、第 2 回 11 月 20 日、第 3 回 12 月 23 日、第 4 回 1 月 20 日、第 5 回 2 月 17 日、第 6 回 3 月 1 日（対面）、第 7 回 3 月 17 日

【会場運営専門部会】

第 1 回 10 月 7 日、第 2 回 11 月 8 日～9 日（現地）、第 3 回 12 月 10 日、第 4 回 1 月 13 日、第 5 回 2 月 9 日、備品棚卸し作業 3 月 15 日（那須野営場）、第 6 回 3 月 24 日

【配給・食堂専門部会】

第 1 回 10 月 20 日、第 2 回 11 月 27 日、第 3 回 12 月 24 日、第 4 回 2 月 27 日～28 日（現地）

【広報専門部会】

第 1 回 7 月 22 日、第 2 回 8 月 28 日、第 3 回 9 月 16 日、第 4 回 10 月 25 日～26 日（現地）、第 5 回 11 月 16 日、第 6 回 12 月 15 日、第 7 回 1 月 20 日、第 8 回 2 月 19 日

【売店専門部会】

第 1 回 11 月 13 日、第 2 回 12 月 16 日、第 3 回 1 月 8 日、第 4 回 1 月 19 日、第 5 回 2 月 10 日、第 6 回 2 月 27 日

(2) 富士スカウト代表表敬・顕彰

〈皇嗣殿下へのご接見〉

日 時：3 月 31 日（火）10：00～10：50

場 所：東京・赤坂東邸

参加者：代表スカウト 23 県連盟 47 人、水野理事長、ほか役員・スタッフ等 7 人

内 容：日本連盟代表挨拶/グループに分かれての皇嗣殿下および悠仁親王殿下とのご懇談/富士スカウト代表より決意の言葉/弥栄/皇嗣殿下からのお言葉

〈首相官邸への表敬訪問〉

日 時：3 月 31 日（火）18：00～18：15

場 所：東京・首相官邸

参加者：代表スカウト 11 県連盟 39 人、水野理事長、ほか役員・スタッフ等 12 人

内 容：日本連盟代表挨拶/高市内閣総理大臣からの励ましの言葉/中村裕之文部科学副大臣から励ましの言葉/富士スカウト代表より決意の言葉/弥栄

(3) スカウトソングセミナー

日 時：3 月 22 日（日）14：00～16：00

場 所：オンライン（大阪・大阪スカウト会館から YouTube 配信）

視聴者：約 200 人、スタッフ 5 人

内 容：室内や野外でのソング活用例

(4) スカウトソング音源制作タスクチーム

タスクチームの取り組みとして、アクションソングを中心とした新音源の制作を行いました（チェッチェッコレ、ビリマンジャ、台湾アミ族の牛追歌、マオリハーカー、ツンバレリツンバ、クカブラ、スカウト達よ、愉快スカウト）。ソングアドバイザー研修にて資料として活用するため、一般公開をする予定です。

(5) 全国スカウトフォーラムアフターフォーラム

- ・ 期 間：2025年11月1日（土）～3日（月・祝）2泊3日
- ・ 事前集会：10月1日（水）20:00～オンライン開催
- ・ 会 場：静岡県三島市立箱根の里
- ・ 参加者：37県連盟から37人の代表スカウト
- ・ テ ー マ：「きっかけをつくれる VS が先陣を切る！！身のまわりの人を巻き込み、“地域をよりよくする意識を0から1へ”」の取り組み発表会
- ・ 参加者：37県連盟から代表ベンチャースカウト37人
- ・ 内 容：プロジェクト発表会

昨年度開催した第25回スカウトフォーラムでの宣言「きっかけをつくれるVSが先陣を切る！！身のまわりの人を巻き込み、“地域をよりよくする意識を0から1へ”」に基づき、参加した代表スカウトの所属する県連盟や地区、団などそれぞれの地域で具現化された活動内容や実施されたプロジェクト結果を発表・講評することを通じて、スカウト同士の情報交換や今後の活動展開への活力となり、来年度の全国スカウトフォーラムへの気運を高めることを目指し、「アフターフォーラムアフター」を開催しました。

6. 公I事業「共済事業」

(1) 共済事業

共済加入者数は77,851人（非加盟員含む）で、対前年比で2,934人減、3.6%減で事業運営しました。運営にあたり、Chubb損害保険株式会社（以下「Chubb損保」）との再保険契約を継続し、当連盟が支払った共済金の一部を再保険金として回収しました。

(2) 安全普及啓発活動等

安全普及啓発活動として「安全促進フォーラム」、「セーフ・フロム・ハーム推進フォーラム」及び「安心・安全講座」の3事業に取り組みました。

【安全促進フォーラム事業】

年間6回の促進フォーラム（当連盟主催）を開催し、合計参加者数は185人となりました。特に2会場目以降は「熱中症対策ガイドライン」を資料に追加し普及を図りました。

当該フォーラム参加者が講師役となって安全普及を図るセミナーを各県連盟で開催するよう促しました。

【セーフ・フロム・ハーム推進フォーラム事業】

当初年間5回のフォーラム開催を計画し再募集の案内も行いましたが、実際は3回の開催（1回はオンライン開催）となり、3回のフォーラム参加者は合計63人となりました。

【安心・安全講座事業】

電子化した「野外活動のための安心・安全講座」を当連盟のホームページに掲載しダウンロードによる取得を促し周知を図ったほか、事故データ分析等の安全情報をデジタル配信で実施する体制について検討しました。

また、セーフ・フロム・ハームの研修プログラムの内容見直しを行ったほか、全県連盟事務局に対する AED トレーニングキットの配付および希望する県連盟事務局に対する AED の再配備に伴う一部経費の補助を引き続き行いました。当初想定したセーフ・フロム・ハームガイドラインの全指導者への配付については、セーフ・フロム・ハームの上位概念であるダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン宣言（DEI 宣言と略す）を 2025 年 5 月 8 日理事会において採択し、ボーイスカウト日本連盟の活動に関わるすべての人に向けて、『ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン』を推進することを宣言しました。そのため、県連盟・地区の教育責任者（コミッショナー）を対象に、全国 5 会場で、DEI 宣言の理解推進のためのセミナーを開催しました。

(3) 監査

本年度は、12 月 3 日に文部科学省の立入検査があり、是正又は改善の措置を要すると認められる事項について対応し、事象が発生した場合のフローを作成することとしました。

また、2026 年 2 月 4 日に当連盟担当役員による内部監査が実施されました（2 月 9 日に追加調査対応・資料提出）。大きな不備は認められず、業務遂行状況は概ね良好である点を確認されました。ただし、改善推奨事項として、当連盟が取引先に提出を依頼している「反社会勢力排除誓約書」を再保険契約先 Chubb 損害保険株式会社にも提出いただくこと及び現在取り組んでいる約款改定のうち遅延金運用についても速やかに進めるよう指示がありました。

(4) 役職員に対する教育・研修等の実施状況

理事会において共済事業の関連資料を配付し「そなえよつねに共済」の内容・共済事業における役員の責務をはじめ、事業全般に対する理解を深めました。担当職員についても円滑な業務遂行を目的に研修を行いました。外部委託業者に対しても定期的な点検を通じて、迅速かつ正確な事故処理体制および業務水準の確保に努めました。

(5) 共済規程、内部規則等の制定・改廃の状況

共済掛金ならびに遅延金運用（文部科学省立入検査指摘事項）について、協議を重ね改定することとしました。共済掛金改定については、事故データより検討した内容について 10 月開催の第 3 回理事会で協議ののち、11 月開催の全国事務局長会議および 1 月開催の県連盟代表者会議にて説明を行いました。今後のスケジュールは、5 月開催の理事会および定時評議員会にて承認されたのち文部科学省へ申請書提出、許可を得られたら 2027 年度より改定した掛金で運用するために、直ちにシステムの改修に入る計画としました（来年 1 月から始まる次年度継続登録手続きから運用開始）。

7. 公 2 事業「BS 運動の普及及び広報」

(1) 普及資料の作成

保護者向けリーフレット・子ども向けリーフレット・ポスター・団体案内については軽微な修正をし、Q & A 冊子はリニューアル、指導者用リクルーティング用リーフレットは新規で作成し、全県連盟他に配付しました。

(2) 名誉会議

年次表彰として、2025 年度全国大会において、公共奉仕綴 15 隊、スカウティング褒

章2人、褒状38人、感謝盾5人、特別感謝章1人、日連感謝章13人、感謝状21人及び法人・団体24団体、維持会費協力依頼額達成県連盟40県連盟、きじ章3人、たか章29人、かっこう章84人、金桜章2人、銀桜章7人、国際親善章7人の方々に方々に、それぞれ贈呈または授与いたしました。

他、団50年章、隊褒彰綬、特別年功章につきましては、2025年度表彰者名簿に記載しています。

(3) 組織拡充顕彰

2025年度全国大会において、64団及び13県連盟の顕彰を行いました。今年度の顕彰については、2025年11月28日付で全県連盟宛通知のうえ、2026年度全国大会表彰式において顕彰を行います。

(4) 写真、ムービーコンテスト

第53回全国写真コンテストを実施しました。少年少女の部、青年成人の分、オンライン投稿の部の3つの部門でのコンテストを実施し、全国からの応募を募りました。

ムービーコンテスト2025は、昨年度は開催を見送りましたが、今年度2年ぶりに開催しました。

(5) 秋のキッズフェスタ参加

開催日：10月25日（土）・26日（日）

会場：国立オリンピック記念青少年センター

内容：一般の児童向けのプログラム提供（火起こしゲーム）

東京連盟の実施運営協力により出展しました。

8. 公2事業「図書雑誌等刊行・電子情報提供」

(1) 広報誌(COMPASS等)刊行

2024年度に発行開始した対外的広報誌 Compass of Scouts の年に2度の刊行が挙げられます。Compass of Scouts は2025年5月号より各団に10部ずつ、そして維持会員や企業等の方々にも配布しています。

2025年度は、掲載記事として各地の活動を公募し、全国から多くの記事を寄稿いただきました。活動内容もバラエティに富んでおり、日本のスカウティングにおける多様性と意義を対外的にもわかりやすく示す媒体となっています。各県連盟からもご好評いただいております。県連盟からのご要望に応じて有料での頒布にも対応いたしました（県連盟からのご相談のみ受け付けています）。よって、Compass of Scouts はボーイスカウトを知らない保護者の方々にもスカウティングの魅力を伝える手法の一つとして確立されたのではないかと考えています。

(2) 出版物刊行(増刷、改訂版発行含む)

本年度は次の書籍の発行を行いました。

〈新刊〉2025年5月20日『日本連盟規程集』2025（令和7）年版

2026年3月19日『ボーイスカウト隊リーダーハンドブック』

2026年3月19日『ベンチャースカウト隊リーダーハンドブック』

2026年3月19日『ローバースカウト隊リーダーハンドブック』

〈改訂〉2025年10月28日『安全ハンドブック』第2版

2025年10月29日『月の輪ハンドブック』改訂版2024
2025年12月3日『スカウト進級手帳』改訂版2026
2026年3月13日『スカウトハンドブック・ベーシック』改訂版2026
2026年3月13日『スカウトハンドブック・アドバンス』改訂版2026
〈増刷〉2025年4月12日『ボーイスカウト指導者手帳』改訂版2022 3刷
2025年6月14日『カブスカウト隊リーダーハンドブック』改訂版2017 4刷
2025年10月20日『スカウティングフォアボーイズ』34刷
2026年2月27日『カブスカウト歌集』56刷
2026年2月27日『地図とコンパス』26刷
2026年3月28日『りすの道』11刷
2026年3月28日『カブブック うさぎ』11刷
2026年3月28日『カブブック しか』11刷
2026年3月28日『カブブック くま』11刷
2026年3月28日『カブブック チャレンジ章』11刷

(3) BS アプリ開発と保守

2023年度にSAJ会員マイページがリリースされたものの、マイページにおける情報発信の仕組みの構築は不十分な状態が続いていました。そこで2024年度にプッシュ型で全国各地のボーイスカウト関係者に直接の情報伝達を実現することを目指し、ボーイスカウトアプリの開発に着手しました。遂に2025年度には本格的な開発が着手され、第一弾として5月の全国大会にあわせてベータ版をiOSのみで公開しました。その後開発ベンダーの変更等により開発スケジュールは当初想定よりも遅延したものの、10月にはAndroid・iOS双方の正式版をリリースしました。正式版のリリース後数ヶ月は日本連盟組織のみでの運用をしていましたが、12月には各県連盟に対してScoutUP!のお知らせ配信機能の説明を実施し、今後は各県連盟（利用を希望した場合）でもScoutUP!でのお知らせ配信が活用されることが期待されています。

本アプリは日本連盟のみならず県連盟や各団の着実な情報発信を支援する他、日本連盟全体における情報伝達の速度向上に寄与することを狙い開発されたものです。また、速度以外の側面においても、デジタル化の潮流にあわせて対内広報のあり方を再定義する存在として捉えています。運用面の工夫としてScoutUP!のリリースにあわせてマンスリーレター「ミライ冒険通信」のWeb上での刊行しアプリでの通知を組み合わせた運用を定着させました。日本連盟Webサイトにおける旬な情報を毎月取り上げるほか、その月にあわせて日本連盟各種委員会・コミッショナーの目線で横連携しながら必要な事柄を掲載するオペレーションを確立することができました。また、プログラム委員会と連携し「今月のスカウトソング」などの企画も第四四半期にスタートし、今後の利用拡大が期待されています。

一方、10月の本リリースから4ヶ月を経た1月末時点ではダウンロード数は3,470とまだまだ伸び代があるのが現状です。ただし、ScoutUP!の対内広報における存在感自体は着実に高まっており、他のSNS媒体の統計情報と比較しても投稿の表示回数・閲覧者数ともに肩を並べる程度に伸長しています。各県連盟と連携しながらのますますの活用、ダウンロードの促進に取り組んでいきます。

9. 公3事業「指導者の養成」

(1) 全国大会（全国スカウト教育会議を含む）の開催

日 時：5月24日（土）～5月25日（日）

場 所：福岡・アクロス福岡 他

テーマ：人と地球によりよい未来を

～地域とともに歩み、社会課題の解決に貢献するスカウティングを目指して～

参加者：約865人

内 容：開会式/表彰式/全国スカウト教育会議(テーマ集会)/スカウティングエキスポ(こども体験まつり) ほか

〈全国スカウト教育会議（テーマ集会）〉

今回、委員会横断型ワークショップとして4つ、RCJ 運営委員会として1つの計4つのテーマを設定しました。

- ①災害対応とスカウティング
- ②スカウト・青年参画の推進
- ③スカウティングと地域社会
- ④加盟員を増やすために必要なこと
- ⑤変わりゆくローバー、高め合うローバー（RCJ 運営委員会）

(2) 成人支援体制の充実

① サポートツール開発事業

eラーニング取り入れたボーイスカウト講習会の実施、各県連盟にて68回実施

② AIS 方針の浸透推進事業

【AIS 方針の普及のための説明セミナーの開催】

- ・ AIS 方針に則った団の運営に向けて、各種ツールの活用方法を取り入れたもの
- ・ 3ブロック（中部、北海道・東北、九州・沖縄）、3県連盟（香川、愛媛、茨城）で実施

【成人のライフサイクルの適切な運用に向けたツールの作成と提供】

- ・ 2024 年度にリリースした各種ツールの活用、AIS 方針運用の実態把握のための調査
- ・ 図解でわかるAISポリシー超入門
- ・ 指導者のリクルート保護者編
- ・ AIS活用ツールと成人のライフサイクルとの関連図
- ・ 団委員長のためのJOBブック
- ・ コミッショナー向け支援ツール

③ ソングアドバイザー養成業

- ・ スカウトソングの普及促進に向け、ソングアドバイザー養成研修の実施
- ・ 東会場（NYC）：9県連盟23人修了
- ・ 西会場（大阪スカウト会館）：11県連盟17人修了

④ ボーイ隊／ベンチャー隊リーダーハンドブックの改定

タスクチームを編成し改定作業を完了し、2026年3月下旬に販売開始

(3) 指導者育成事業

① 県連盟指導者養成

スカウトの自己の成長に向けたプログラムの提供と充実した隊、団等の運営方法を習得するために成人指導者の研修を以下のとおり開設実施しました。

- ・ ボーイスカウト講習会 (172回、2,351人)
- ・ ウッドバッジ研修所スカウトコース (29コース、620人)
- ・ ウッドバッジ研修所課程別研修 (110回、881人)
- ・ ウッドバッジ研修所スカウトコース+課程別研修(一括開設型) (開設なし)
- ・ 団委員研修所 (9コース、139人)
- ・ コミッショナーベーシックトレーニング (5コース、72人)
- ・ コミッショナー任務別研修 地区コミッショナー課程 (5コース、61人)
- ・ コミッショナー任務別研修 県コミッショナー課程 (1コース、13人)

② 県連盟開設指導者訓練補助

県連盟開設訓練コースのうち、複数日程での宿泊を伴うコースに対して、県連盟による円滑な運意を促進するために、開設補助金を支給しています。

ウッドバッジ研修所スカウトコース (29コース)

団委員研修所 (9コース)

コミッショナーベーシックトレーニング (5コース)

③ 日本連盟開設指導者訓練

- ・ ウッドバッジ実修所 (6コース、130人)
- ・ 団委員実修所 (1コース、24人)
- ・ ウッドクラフトコース (1コース、11人)

(4) トレーニングチームの充実

- ・ 副リーダートレーナーコース (1コース、18人)
- ・ リーダートレーナーコース (1コース、10人)
- ・ 新任副リーダートレーナー研修会
6月14日(土) 東会場：スカウト会館、6月15日(日) 西会場：大阪スカウト会館
- ・ 令和7年度県連盟ディレクター研修会
開催日：2025(令和7)年12月6日(土)～12月7日(日)
場 所：東京・国立オリンピック記念青少年総合センター
- ・ 令和8年度ウッドバッジ実修所・団委員実修所所長研修、所長・主任所員会議
開催日：2026(令和8)年1月24日(土)～1月25日(日)
場 所：東京・国立オリンピック記念青少年総合センター
- ・ 令和7年度トレーナー研究集会
開催日：2025(令和8)年2月1日(日)～2月23日(月)の間
場 所：全国11会場

10. 公4事業「国際理解促進国際協力」(詳細は「各種資料」参照)

(1) ナショナルジャンボリー等(含む富士スカウト海外派遣)派遣

① カンダーシュテーク夏季野営スタッフ派遣

2025年6月1日(日)～9月1日(月)

参加者 スカウト1人

② 第16回世界スカウトムート派遣

2025年7月23日(水)～8月4日(月)

参加者 スカウト16人、指導者3人

③ 第11回アジア太平洋地域スカウトユースフォーラム派遣

2025年10月6日(月)～10月9日(木)

参加者 スカウト3人

④ 台湾ナショナル・ローバー・カンファレンス派遣

2026年2月6日(金)～2月10日(火)

参加者：3人

⑤ スカウト特別海外派遣(霞会館補助事業)

2026年2月18日(水)～3月4日(水)

参加者 スカウト1人

(2) WOSM、APR への委員等の派遣

2025年度に実施された国際会議等への参加は、APRスカウト委員会関係の会議・行事の他、第28回APRスカウト会議への参加があった。

(3) APR スカウト会議

【APRスカウト会議】

期 間：10月12日(日)～17日(金)

場 所：台湾・高雄市

参加者：26か国・321人

代表団：代表6人(首席代表：水野理事長)、オブザーバー7人、APRの職をもって参加する者4人、合計17人

参加者：27か国・代表47人、オブザーバー77人

【第11回アジア太平洋地域スカウトユースフォーラム(APSYPF)派遣】

日 時：10月6日(月)～9日(木)

場 所：台湾・高雄市

参加者：27か国・代表47人、オブザーバー77人

派遣員：ローバースカウト2人、オブザーバー1人

(4) JOTA-JOTI2025

日 時：10月17日(金)00:00～19日(日)24:00

場 所：日本各地および世界各地

参加報告：25県連盟から71件1,713人

オンライン説明会：3回(2月26日、4月23日、9月16日)開催

【2025年度の新たな取り組み】

① 「JOTA-JOTI ジャパン・プレミア2025」の開催

より多くの隊や団が参加できるように、国内の疑似体験「ジャパン・プレミア」を次のとおり開催しました。

・日 時：2025年7月21日(月・海の日)10:00～15:00

・参加者：19県連盟から42こ団が参加

・活動内容：無線やインターネットを介してのチャット、映像や音声のライブ配信などを通して、国内のスカウト仲間と交流し結果を記録します。隊、団、地区などのプログラムとして実施したり、スカウト個人として参加したりと、参加形態は問いません。

② 「JOTA-JOTI2025 in アイコムならやま研究所」の開催

団や隊において、自らが運営者となって JOTA-JOTI への参加を主導できる知識の習得を目指すために実施

- ・実施日：2025 年 10 月 18 日（土）～19 日（日）1泊2日 社屋舎営
- ・実施会場：アイコム（株）ならやま研究所（奈良県奈良市）
- ・参加者：JOTA 4人、JOTI 1人
- ・内容：世界スカウト機構(WOSM)が主催する国際プログラム JOTA-JOTI への参加を通して、自団、隊などにおいて、自らが運営者となって JOTA-JOTI への参加を主導できる知識の習得を目指します。

11. 収益事業

(1) 不動産事業、事務代行業

日本連盟の財政基盤を支える収益事業としては、不動産賃貸、業務受託事業があり、不動産賃貸では、①後楽園 SAJ ビル（文京区本郷 1-34-3）の一部を収益事業としても活用、② JLB グランエクリュ杉並（杉並区下井草 4-278・スカウト会館隣地）も第三者に賃貸し、約 7,500 万円の賃貸収入を得ています。出来る限り永く使用できるよう、必要な営繕・メンテナンスも施し、益を生む大切な資産として活用・維持しています。

事務代行業では、(一財)ボーイスカウトエンタープライズの事務受託を行うとともに、ロイヤリティ収入も含め約 5,950 万円の受託業務収入を獲得しています。その他、高萩スカウトフィールドを活用し、公・民・学の各機関から多様な研修事業も受託しています。

いずれも受取会費の減少を補完する貴重な収益財源として、今後とも積極的に取り組んでいきます。

(2) その他

① 登録事業

加盟登録システムのセキュリティの強化などを図り、安定稼働に努めました。

② 賠償責任保険

全ての加盟員対人（1事故最大5億円）および対物（1事故最大500万円）の賠償責任保険を付保し、万が一の際の損害賠償をカバーしました。また、2021年度より、日本連盟役員の賠償リスクを補償し、安心して組織運営ができるよう会社役員賠償責任保険も付保しています。

保険料増額が想定されることから、賠償責任免責額の改定について、共済掛金改定と同じタイミングで実施することに向けて協議を進めました。

12. 管理事業

公益事業を支える日本連盟管理事業としては、主に事務局運営業務があります。事務局運営は、出田専務理事が担当し、通常業務は、中橋事務局長が担当し展開してきました。

事務局業務は、日本連盟全体の事務局として、公益事業関連の事務や収益事業の管理があります。

IV 各種会議の開催

(1) 評議員会

第1回(定時) 5月23日(金) 15:00~17:05 福岡・アクロス福岡

第2回(臨時) 1月24日(土) 11:00~12:30

国立オリンピック記念青少年総合センターならびに WEB

第3回(臨時) 3月14日(土) 14:00~17:00 スカウト会館ならびに WEB

以上のとおり評議員会を開催し、日本のボーイスカウト運動の発展の為に、定款に定められた重要事項の審議・決定をいただきました。

(2) 理事会

第1回(定時) 5月8日(木) 19:00~21:00 WEB

第2回(臨時) 8月28日(木) 19:40~21:25 WEB

第3回(定時) 10月4日(土) 13:30~16:30

東京・TKP カンファレンスセンターならびに WEB

第4回(臨時) 12月15日(土) 20:00~21:00 WEB

第5回(定時) 1月10日(土) 14:00~15:40 スカウト会館ならびに WEB

第6回(定時) 3月14日(土) 10:00~13:00 スカウト会館ならびに WEB

以上のとおり理事会を開催し、日本連盟の状況を理事、監事が理解、共有すると共に、重要事項の審議・決定を行いました。

(3) 運営会議

第1回 4月22日(火) スカウト会館ならびに WEB

第2回 9月30日(火) スカウト会館ならびに WEB

第3回 1月6日(火) スカウト会館ならびに WEB

第4回 3月10日(火) スカウト会館ならびに WEB

(4) スカウト教育推進本部会合

第1回 4月5日(土)~6日(日) 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

第2回 9月6日(土)~7日(日) 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

第3回 11月8日(土)~9日(日) 東京・スカウト会館

第4回 2月7日(土)~8日(日) 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

(5) 専務・常務会

毎月第4火曜日を基本に12回及び臨時で2回の計14回開催し、日々の運営に関する事項の協議・検討・調整等を行いました。

(6) 常設委員会

① 総務委員会

第1回4月29日、第2回5月27日、第3回6月24日、第4回7月29日、

第5回8月22日、第6回9月22日、第7回10月28日、第8回11月25日、

第9回12月23日、第10回1月27日、第11回2月24日、第12回3月24日

計12回をオンライン会議で開催し、各常設委員会の取り組みの確認、調整を行いました。

② 財務委員会

第1回4月23日、第2回9月16日、第3回3月3日

計3回をオンライン会議で開催し、日本連盟の財政状況の検討並びに決算報告書・予算書案の作成・承認を行い、理事会に上程しました。

③ 共済委員会

第1回4月20日、第2回6月26日、第3回9月19日、第4回11月12日、

第5回2月11日と、5回の委員会を開催し、年度事業への取り組みを行いました。共済事業報告、決算の作成・承認、事業計画および予算の作成・承認、安全促進フォーラムをはじめとする安全普及啓発活動の実施、文部科学省への報告等を行いました（事業については当該欄参照）。

④ 広報委員会

毎月第2木曜を基本に委員会を開催し、広報施策の各種議論を実施しました（オンライン13回、対面3回）。対面の会議ではその都度テーマを設定の上でブレインストーミングを実施し、訴求相手に応じた広報の訴求メッセージの議論を重ねました

また、広報委員会として主催する常設委員会横串の広報連絡会をオンラインで原則毎月開催し、各委員会からの広報的ニーズのヒアリングや広報観点での情報交換を実施しました。

【タグラインの策定と広報活用・普及動画の刷新】

2024年度からの継続的な課題感として、ボーイスカウトについて馴染みのない方々に対して「ボーイスカウトが何か」をわかりやすく一言で簡潔に伝えることが肝要であると考えました。そこで、一般の方々への広報活動の際にこれまで活用されてきた「なろう。一人前に。」というフレーズの見直しに着手し、2024年度には新たに「人と地球によりよい未来を」を日本のボーイスカウトのタグラインとして決めました。2025年度はこれを全国大会にあわせて公開し、全国各地の広報活動における定着を図りました。タグラインについての説明動画を公開した他、PRツールダウンロードセンターにはブランドガイドラインやパワーポイントテンプレートなど刷新されたPRツールを掲載し訴求しました。また、普及資料をはじめ各種広報媒体においても「人と地球によりよい未来を」の世界観にあわせた訴求メッセージを連動させる形で構築しています。目に見えやすい形として、特に新たなパワーポイントのテンプレートは全国各地で使用されている状況を認識しており、「人と地球によりよい未来を」が対内的に徐々に定着してきている様子を裏付けていると考えています。

【普及動画の刷新と保護者層向け情報発信】

タグラインの公開後、11月には普及動画を刷新し「知っていますか？ボーイスカウト」を公開しました。長らく活用されていた2018年公開の「ボーイスカウト物語」に代わる存在を目指して作成された動画であり、タグラインを活用した訴求ストーリーにあわせて内容を構築しています。動画自体も好評いただいております。25年3月時点でYou Tubeでは98.3%（113件）の高評価をいただいております。AIS委員会とも連携しながら作成をした動画であり、今後ボーイスカウト講習会などでも活用されることが期待されています。

また、保護者向けインタビュー動画も既存のものに加えて新しい動画の企画に着手しており、3月末に撮影が予定しています。動画の公開自体は年度を跨いだものになりますが、公開に向けて着実な準備を進めています。一方で当初の中長期計画で予定されていた年間3本の動画という指標には到達していない状況のため、改善の余地があります。

【PR ドリームチームの再編と全国各地と連携しての広報活動推進】

2017年に設置されて以後チームとしての活動が停滞していたPR ドリームチームを再編し、チームとしてのミッションを再定義しました。「全国各地の広報の取り組みを支援すること」を目的の一つに掲げ再始動し、チームそしてコミュニティとしての活性化を図りました。ドリームチームの重要性の背景として、全国各地で保護者層の方々に直接アプローチできるのは全国各地の方々である、という事実があります。よって、日本連盟の広報施策をドリームチームの方々とも共有し、お互いの悩みを共有しながらの全国的な広報活動の改善を目指しました。

まず初めに、主にドリームチームメンバー向けを標榜しながら、オンラインでの隔月の広報セミナーを実施しました。広報委員会の施策の考え方や、写真の撮り方、デザインのコツ、そしてAIS委員会と連携しての指導者リクルーティング講座など幅広いトピックを取り扱いました。

また、ドリームチームメンバー向けにはSlackでの日々の情報交換を実施したほか、1月にはメンバー限定のオンラインでの交流会を実施し、広報における悩み事などを共有しました。

最後に、ドリームチームのメンバーとも各地における広報の悩み・成功事例を情報収集しながら、「各団向け広報マニュアル」を年度末に公開すべく作成しています。保護者がボーイスカウトを認識し、興味を持ち、情報収集し、体験し、加盟するまでのおおまかな流れを図示し、ステップごとにどのような広報活動が求められるかをマニュアルとして取りまとめています。これにより、保護者層へスカウティングの魅力伝える手法が全国各地の広報担当者にも伝達され、共有知に基づいた広報活動が展開されることを期待しています。

⑤ 組織拡充委員会

毎月第3火曜を基本にオンラインで委員会を開催し、その他3回対面にて会議を行いました。

【第3期中長期計画より】

(1) 2号会員登録管理小委員会

- ・ 毎月1回Web会議及び対面会議を3回開催しました
- ・ 2号会員に登録するメリットを見出すことが難しかった
- ・ Scout UP! がリリースされ必要な情報が必要な方に届くメリットが出来ました
- ・ 登録情報が団・隊でなく日本連盟で管理される安心感のメリットが見いだせました
- ・ 団・隊と紐づけできる「サポーター会員」に注力して進めていきます
- ・ 団・隊が無くなり行き場のない加盟員で「OB OG 会員」に登録される方は極めて少ないが、受け皿としての継続は必要だと考えられます
- ・ 卒業後もそれまでの所属団とはつながっていたいと要望は多く、OBOG 会員ではなくサポーター会員への誘導を推進した方が容易と感じました
- ・ サポーター会員の登録には、スカウトの登録時とセットとしてメリットを説明できれば促進されるのではないかと

(2) 地域における体験活動促進

- ・ 運営マニュアルの改訂を行いました
- ・ 野外活動以外の活動の研究結果をマニュアルに盛り込みました

(3) ボーイ隊以上からの入隊促進及び大学ローバーの設置促進

- ・ BS 隊以上からの入隊はモデル団の設定、及び打合せが終わり、今後実証していくことになりました

- ・ 大学ローバーの設置については地域差が大きく一部にとどまっている
 - ・ 卒業後の OBOG 会員への登録については、進行なく、要因については前述のとおり
- (4) 「特色のある団」設置の研究と実証
- ・ 団情報ページについてリニューアル実施中
 - ・ 対応できる言語の表記を追加して、外国籍のスカウトが加盟しやすくする取り組みを行いました
 - ・ 空白地域への対応としては、スカウトがいない団の登録を例外的に可能にして引き続き募集活動が出来るようにしたい
 - ・ 住所移転したローバーと当該県連盟とをつなぐ取り組みについては「人生の岐路に立つ君へ」事業のローバーへの拡大で一定の道筋がつけられる

⑥ ファンドレイジング委員会

【定例会議】

毎月第3水曜に開催（オンライン11回、対面1回）し、個人連携、法人連携、地域連携と役割を明確にして、担当事業について協議を行いました（各事業については当該欄参照）。

【対面委員会】2025年9月6日（土） スカウト会館

委員そのものの知見を深めていくため、広報委員会からも参加を得て、相互に勉強会などを開催しました。

【県連盟への支援】

- ・ 静岡県連盟理事長・副理事長へ外部資金導入についての相談対応(2026年1月29日・静岡県連盟事務局)を行い、好評を得た。一定のニーズを伺っているので今後も同様の支援を県連盟に対して行っていきたい。
- ・ 団・地区・県連盟で活用できる助成金情報の発信

<https://www.scout.or.jp/member/joseikin-matome>

あわせて、地域でどのように進めていくかの観点での情報提供に努めました。

【ぼうさい国体 2025】

地域連携として「ぼうさい国体(25/9/6 新潟)」を新潟県連盟の協力で実施しました。会場巡回のプログラムとしてローバースカウトから防災クイズを出して、他のブースを参照するなど進めました。

<https://www.scout.or.jp/member/bosai-kokutai-2025>

【ポケモン活用プログラム】

プログラム委員会、広報委員会と連携して準備を進めてきた「ポケモン活用プログラム」を第一弾として実施。二年間の申し込みを受けて、次年度も実施予定。

<https://hugkum.sho.jp/721490>

【難民衣料回収プロジェクト】

例年、ユニクロ×ボーイスカウトで実施してきた「難民衣料回収プロジェクト」については春期間(3月～5月)秋期間(9～11月)で実施。約1万着を回収

https://www.scout.or.jp/member/support_for_refugees/

【難民問題理解のためのオンライン学習会 2025】

国連 UNHCR 協会との「連携協定」に基づいて「衣料回収から見た難民問題」をテーマに天沼耕平氏(国連 UNHCR 協会ファンドレイザー)によるオンラインでの学習会を開催(2025年9月10日)当日の様子はアーカイブにして、後追い視聴することができます。

<https://www.scout.or.jp/member/refugees-seminar-2025>

<https://www.youtube.com/watch?v=IS8p6N7dp6c>

【地域連携セミナー～地域に役立つスカウト活動を目指して「地域連携のススメ」】

今回のセミナーでは、「どうしたらもっと地域との連携が進むか」をテーマに①自団体の価値を知ってもらう、②地域と連携していくためには、何が必要で、実施に当たってのポイント、③事後の報告など具体的なノウハウを参加者に知ってもらい、現場で汗する加盟員とグループディスカッションを経て、社会に貢献するスカウト活動を実現することを目指しました。

日時 2025年11月27日(木)

場所 オンライン開催(模様はアーカイブにしてあり、配布資料と共に後追視聴可能)

https://www.scout.or.jp/member/chiiki_renkei_seminar

あわせて、新中期計画に基づいて、前年度に引き続いて、県連盟で「地域連携」を担う委員会について調査を進めた。

【アニュアルレポート】

法人連携では、広報委員会と連携してお預かりした寄付の使い道を報告する「アニュアルレポート」を発行していましたが、経費削減を進めるために「COMPASS of SCOUTS」に統合すると共に、支援企業に対して定期的に訪問していくことで、連携が深まる取組を進めていきます。

【中長期計画の推進・実現の観点からの評価】

委員会として個人連携、法人連携、地域連携として役割分担をして、大変機能的に活動していただいた。個人連携では、クラファンの実施を中心に組織内外とのコミュニケーション、特に一般に向けての記者発表などを行い、トモスス助成の拡充などを担った、法人連携ではコロナで途絶えてしまっていた年末年始のご挨拶など3か年にわたって実施するなどして19NSJへの法人支援に繋げていった。地域連携では「地域連携ハンドブック」の発行と「地域連携セミナー」の実施を行うなどに取り組んだ。

中長期計画にあるように、加盟員が減少する中で、外部資金の導入は、大切な取り組みであるが、クラファンでのコミュニケーションや法人訪問のように、大変、手間がかかり、労力を割かなければならないものである。資金調達を進めるためには、資源を投入する必要もあり、単なるプログラム連携や地域社会連携は、他委員会等で担ってってもらい、外部資金の導入に関することに注力するなど「選択と集中」がより必要と思われる。

⑦ プログラム委員会

【委員会の開催】

- ・ 委員会11回開催(対面会議2回、web会議9回)
- ・ 委員12人(委員長、副委員長2人、委員9人)
- ・ 「日本青少年プログラム方針」に基づいたプログラムの検証、開発、評価、およびスカウトの進歩・進級制度の円滑な運営と普及を目的として活動した。
- ・ 日本連盟事業運営に関する検討、報告、評価
- ・ 各部門のプログラム開発に関する検討、タスクチームの報告、評価(各施策・事業については当該欄参照)

【2025年度全国進歩・進級に関する担当委員長会合の開催】

- ・ 日時：2026年2月14日(土)18:00～20:00
- ・ 開催方法：オンライン

- ・対象者：進歩・進級に関する担当委員会（プログラム委員会、進歩委員会、スカウト委員会など）の委員長またはその代理者 各県連盟1人
- ・内容：信仰奨励章取得要件の改正、スカウトプログラム方針、進歩・進級課題に関する意見交換他

【全国ローバースカウト会議（RCJ）への支援】

RCJ 運営会議等への参席、アドバイザーとしての助言指導を実施した

- ・ RCJ と共に全国のローバースカウト（RS）の活動状況の集約と活動支援実施
- ・ 2024 年度に 13 年ぶりに開催された「日本ローバームート」の結果を受け、交流だけでなく実際のプロジェクトへの取り組みを見える化することを課題とし活動中

⑧ Adults in Scouting（A I S）委員会

AIS 施策の推進のため、定例の会議を 10 回（8 回オンライン、2 回対面）、日本連盟ディレクターチームとの合同会議を 3 回（3 回対面）開催しました。

また、指導者訓練の推進のため、日本連盟ディレクターチームは定例会議を 13 回（11 回オンライン、2 回対面）で開催しました。

(7) 特別委員会

① 第 19 回日本スカウトジャンボリー

5. 公事業「集会及び講演会の開催」（1）19NSJ 開催準備を参照

② 「スカウト用品経営会議」特別委員会

毎月定例で委員会を開催（オンライン会議）し、ボーイスカウトエンタープライズの経営状況について協議を行い、決算報告書・予算書の作成・承認し、理事会・評議員会に提出を行いました。

③ ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン特別委員会

2024 年 6 月に「ダイバーシティ & インクルージョン特別委員会」として第 1 回の委員会を開催し、2025 年 3 月 3 日に第 10 回委員会を開催し、3 月 8 日開催の第 5 回理事会に「D & I 宣言」を提案しました。その際、4 月 1 日付けで委員会名称を DEI 特別委員会に名称変更することも承認され、また D & I 宣言に、「E = エクイティ」を加えてブラッシュアップすることとなりました。

【定例会議】

2025 年度には 11 回の特別委員会を開催し、DEI 宣言の策定および事業推進について検討しました。

【DEI 理解推進セミナースタッフ会議】

セミナー開催のため、定例会議の他に 4 回のスタッフ会議を行い、セミナー内容、展開の調整を行いました。

【DEI 推進フォーラムファシリテーター研修】

フォーラム開催のため、公募で推薦されたユース年代のファシリテーターのために、事前に 2 回の研修を行い、事業に臨みました。

【総括】

目標として挙げていたことは、ほとんど実施展開することができました。達成度もおおむね目標に到達できた。DEI 宣言は、宣言とすることで方針やポリシーとするより、一層の決意を広く内外に示すことを目指しました。理解推進セミナーには、県コミッショナーや理事長をはじめ指導者の参加を得て、研修だけでなく充実した意見交換も実施することができました。

ユースフォーラムに関しては、ユース年代ならではの指摘や提案が挙げられて、予想を裏切らない内容となりました。しかしながら、全団調査の中間結果にもあるように、その意識や知識が広く浸透しているとは言い難く、今後の課題として、啓発活動の展開が必要であることは明らかなです。

次なるステップとして、県連盟単位で実施できるセミナーをパッケージにしてリリースしたい。同時にWEBによるセミナーの開発も進めます。

また、スカウト向けの教材の開発も急がれます。

④ 第26回世界スカウトジャンボリー派遣実行委員会

2027年にポーランドで開催される第26回世界スカウトジャンボリーへの派遣準備をする準備委員会から今年度は実行委員会に移し、3回の実行委員会の他、9月には第2回派遣団長会議のためポーランドを訪問し派遣に向けての準備を進めました。

(8) 危機管理委員会、災害対応タスクチーム

水戸守委員長代理を中心に、熊への対応、危機管理規程の改正、自然災害対応規程等について協議を行いました。

第1回 11月 7日(金) WEB

第2回 12月17日(水) WEB

また、災害対応タスクチームにおいては、定例会を毎月開催(臨時会を含む計14回)しました。12月2日(火)には、全国災害対応タスクチームネットワーク会議をオンラインで開催(42県連盟70人、スタッフ7人)し、災害対応タスクチームの任務と活動の方向性について、能登半島地震被災地支援活動について等を共有しました。

(9) 信仰奨励小委員会

宗教関係代表者会議および宗教関係者の会での意見聴取を行いながら、信仰奨励章の取得要件の見直しと『信仰奨励章取得のための手引き(スカウト向けハンドブック)』の原稿をまとめ、作成しています。

第19回日本スカウトジャンボリーの信仰奨励プログラム担当者を信仰奨励小委員会委員より選任し、19NSJプログラム専門部会にて準備を進めました。また、委員会および協力教宗派による現地視察を11月16日~17日に実施しました。

- ・信仰奨励章の取得要件を見直し、2026年4月1日施行
- ・『信仰奨励章取得のための手引き(スカウト向けハンドブック)』(新規作成中)
- ・宗教章授与基準の変更:浄土真宗本願寺派
- ・第19回日本スカウトジャンボリー信仰奨励プログラムの計画・準備

【宗教関係者の会】意見交換会

第1回 5月24日(土)

第2回 7月12日(土)

第3回 11月19日(水)

第4回 2月18日(水)

(10) 全国ローバースカウト会議(RCJ) 運営委員会

運営委員 8人

運営委員会開催 12回

全国のローバースカウトおよび同年代指導者を構成員とする組織として、各県に県連盟代

表者を選出し、ブロックごとに代表者を選出しています。今年度は、46都道府県から選出されました。RCJを管理・運営するために運営委員会を置き、ブロック代表、選挙枠委員、留任枠委員の今年度は9人で運営を実施しました。運営委員会では、ローバースカウトの活動促進についての施策などを議論しました。

【2025年度の重点目標と施策】

- 重点目標：・RCJの発信力の強化を目指す
 - ・ローバースカウトの活動・プロジェクト実践の促進をする
- 施策：・ROVERPORT・SNSの活性化を図る
 - ・附属部門である事業推進部門の新設をし、RCJ主催の事業を展開する

【主な取り組み】

2025年度は、重点目標に基づき、RCJが単に意見を集約する場にとどまらず、構成員が主体的に活動へ関わる場を創出することを意識して取り組みました。附属部門として事業推進部門を新設し、構成員向けのオンライン事業を2度開催しました。全国の構成員が地域差や移動の制約を越えて参加できる事業を実施したことは、今後のRCJの発展に向けた第一歩となりました。

全構成員向けのオンライン事業では、ローバーリングに関するセミナーや相互理解を深める場を設けました。県連盟代表者向けには、県連盟代表者会を5回、研究会を10回開催し、RCJに関する基礎的な理解を深める機会や、ローバー年代の活動について考える機会を継続的に設けました。これにより、構成員全体に向けた発信と、県連盟代表者を通じた各地域への情報共有の双方を進めることができました。

【新事業「Rover × Cap」】

新たな取り組みとして、「Rover × Cap（ローバークロスキャップ）」の実施に向けた準備を進めました。本事業は、全国のRCJ構成員がペットボトルキャップの回収を通じて、身近なところから他者への奉仕を実践することを目的としたものです。2025年10月の第3回県連盟代表者会での議論を踏まえ、社会への奉仕とは何かを構成員一人ひとりが考え、自身のローバーリングを見つめ直す機会として位置付けました。

本事業では、各地域で取り組むことができる形式とし、回収後は認定NPO法人世界の子どもにワクチンを日本委員会（JCV）の案内に基づき、回収場所への持参または郵送により参加できる仕組みとしました。また、回収数等を報告するフォームを設け、各地での取り組みを可視化し、全国規模の運動として共有できるよう準備を進めました。

【ROVERPORT・情報発信】

ROVERPORTについては、組織紹介ページ「みなとのようす」、活動予定を掲載する「出航のよてい」、構成員の疑問に対応する「整備のおじさん」などの新規固定ページを作成し、順次公開しました。これらの取り組みにより、全国のローバースカウトが他地域の活動を知り、自らの活動につなげるための環境整備を進めました。

【今後に向けて】

一方で、各事業や会議で得られた学びや気づきを、各県連盟や個々の実践へどのようにつなげていくかについては、今後さらに工夫が必要です。毎年、運営体制が変わっていく組織でありながら、自分たちでこの世代のスカウト活動を充実させたい、広めたいという思いがRCJを支えています。近年では、総コミッショナーとの対話の機会も増え、全国のローバースカウトの声を日本連盟事業へ届ける機会が広がっています。引き続き、RCJは情報発信・意見集約・活動創出の拠点として、全国のローバースカウトが自ら考え、行動し、社会へ還元していくための仕組みづくりを進めていきます。

(11) 宗教関係代表者会議

各教宗派代表から現状報告、意見交換等が行われ、第19回日本スカウトジャンボリーへの協力依頼を行いました。

- 第1回 5月24日(土) 9:30~10:30 福岡県・アクロス福岡
第2回 2月 2日(月) 19:30~21:00 オンライン

(12) 名誉会議

第1回会議(8月31日)は2026(令和8)年度表彰の審査基準を協議し、第2回会議(3月21日)において審査を行いました。

表彰者については、「2026(令和8)年度)表彰者名簿」参照

V 参考(規程等改正一覧、各規程ごと承認順)

【教育規程および施行細則】

(1) 第7章 教育の方法(海外渡航)

承認: 9月6日 教育推進本部会合、10月4日 理事会

施行: 2025年11月1日

本則: 7-8 海外渡航

7-9 海外派遣

7-10 個人海外旅行

7-12 国際紹介状

施行細則: 7-12-1 国際紹介状の申請

7-12-2 受給者の義務

7-12-3 帰国後の報告

(2) 第7章 教育の方法(信仰奨励章)

承認: 9月7日 教育推進本部会合、10月4日 理事会

施行: 2026年 4月1日

本則: 7-6 信仰奨励章

7-54 初級

7-55 2級

7-56 1級

施行細則: 7-6-1 信仰奨励章の取得要件

(3) 第8章 指導者養成

承認: 9月6日 教育推進本部会合、10月4日 理事会

施行: 2026年 4月1日

施行細則: 8-3-10 訓練機関(集合訓練)の指導要員の資格と選任

(4) 第9章 制服及び旗

承認: 9月6日 教育推進本部会合、10月4日 理事会承認

施行: 2025年10月4日

施行細則: 9-4-1 指導者の正装

(5) 第8章 指導者養成

承認：11月8日 教育推進本部会合、2026年1月10日 理事会

施行：2026年4月1日

施行細則：8-2-5 ウッドバッジ実修所第二教程（プログラムトレーニング）

所長養成コース

8-2-6 団委員実修所第二教程（マネジメントトレーニング）

所長養成コース

8-2-7 トレーナー研究集会

8-16-6 トレーナーの委嘱 A トレーナーの新規委嘱（4）奉仕経験

(6) 第9章 制服及び旗

承認：2026年2月8日 教育推進本部会合、2026年3月14日 理事会

施行：2026年4月1日

本則：9-5 礼装

施行細則：9-5-1 礼装の着用基準

【理事等役職者の役務に関する規程の改正】

承認：2026年3月14日 理事会承認

改正日：2026年4月1日

内容：第4条、第5条、第8条 ファンドレイジングを社会共創へ改正

改正理由：委員会、担当理事、委員長名称の変更に伴う改正

【委員会規程の改正】

承認：2026年3月14日 理事会承認

改正日：2026年4月1日

内容：第4条、第5条 ファンドレイジングを社会共創へ改正

改正理由：委員会、担当理事、委員長名称の変更に伴う改正

